（2）セルフイメージ・対社会的自己認識と規範意識との関係

ここではさらに、自分自身をどう思っているのか（セルフイメージ）、あるいは社会との関係で自分をどのように捉えているのか（対社会的自己認識）と規範意識の高低がどのような関係にあるのかを見てみたい。各質問項目についての回答を「とてもそう思う」「ややそう思う」の合計比率の高い順に並べてみると、表３－２及び表３－３にようになる。なお、表中の平均値は、各質問項目に対する回答を、「とてもそう思う」を４点、「ややそう思う」を３点、「あまりそうは思わない」を２点、「全くそうは思わない」を１点として、回答者全体の平均値を計算した数字である。したがって、大まかには、３点以上の平均値の項目は、その内容が肯定されている項目であり、２点以下の項目は否定されている項目だと考えてよいであろう。

表３－２　規範群別に見たセルフイメージ（「そう思う」者の比率）

セルフイメージ	全体	平均値	低規範群	中規範群	高規範群
努力すれば成果は得られると思う	87.6	3.34	78.5	89.9	91.4
自分の性格がいやになることがある	77.6	3.05	79.1	76.9	76.9
私にはこれまで打ち込んできたことがある	71.2	3.04	61.9	70.4	80.2
私は将来に希望をもっている	69.5	2.98	58.3	70.9	77.6
私はがまんづよいほうだ	60.9	2.73	40.1	62.3	77.6
毎日の生活は充実している	58.8	2.65	45.4	60.0	67.9
私は意志が強いほうだ	53.4	2.63	38.8	52.4	67.3
私は人より優れているところがある	48.0	2.48	43.9	47.9	51.5
私は能力には自信があるほうだ	34.9	2.27	29.2	35.7	37.2

表３－２からは、８割近くの高校生が、「自分の性格がいやになることがある」と回答しているが、一方で、９割近くが、「努力すれば成果が得られる」と前向きの考え方をもち、７割が「打ち込んできたこと」があると回答している。「将来に希望をもっている」「生活が充実している」と感じている者は６割弱に留まっているが、自分が「がまんづよい」と思っている者が６割、「意志が強い」と思っている者はやや少なく半数強、自分が「人より優れているところがある」と思っている者も半数弱で、「能力に自信がある」者はずっと少なくほぼ３人に１人しかいない。

次に、低規範群と高規範群の比率の差に注目すると、両者で最も大きな差が見られるのは、「がまんづよい」という点で、37.5 ポイントの大きな差がある。同様に「意志が強い」

は、28.5ポイント、「生活充実感」は22.5ポイント、「打ち込んできたことがある」は19.3ポイントの大きな差が見られる。いずれも高規範群より低規範群が「そう思う」と答えている者の比率がかなり低いのである。

表３－３では、高校生たちの多くは、「人からどう思われているか気になる」「人の役に立つ人間になりたい」「自分の考えを大切にしたい」と考えていることがわかる。しかし、このような対社会的自己認識に関しても、低規範群が高規範群に比べてかなり比率が低い項目がある。「人の役に立つ人間になりたい」では29.8 ポイント、「その場の雰囲気に流されて、自分を見失うようなことはない」では26.5ポイント、「自分の考えを大切にしたい」では16.4ポイントの大きな差が見られる。以上見たような規範群間でのポイント差が大きい項目に関しては、それらセルフイメージや対社会的自己認識のあり方が、規範意識の形成と密接に関わっていることを示唆している。

表３－３　規範群別に見た対社会的自己認識（「そう思う」者の比率）

対社会的自己認識	全体	平均値	低規範群	中　規範群	高規範群
他人からどう思われているのか気になる	84.5	3.24	78.9	86.0	88.1
私は人の役に立つ人間になりたいと思う	80.0	3.15	62.0	82.2	91.8
人からどう思われようと自分の考えを大切にしたい	75.6	3.00	67.4	75.0	83.8
何か人から注目されることをしてみたい	61.7	2.78	60.5	60.6	64.8
その場その場の雰囲気に流されて、自分を見失うようなことはない	51.0	2.58	36.9	50.4	63.4

（３）社会観・生活価値観と規範意識との関係

では、規範意識と社会観や生活価値観とはどのような関わりがあるのだろうか。本調査では、①より一般的な社会規範の遵守に対してどのような態度をもっているか（社会規範遵守観）、②生活価値観、③社会やおとなへの不満・不信の３点との関連を見てみた。

表３－４は、社会規範遵守観との関係を見たものである。この表からは、多くの高校生が「人に迷惑をかける」ことをすべきではないと考え、「法律を守ること」は大切であり、「悪いことをするとバチがあたる」「世間の人の目はきびしい」と考えていることがわかる。

しかし、一方では、そうしたより一般的な社会規範を守ることよりも、学校の規則やきまりを守ることについての肯定率が低いことがわかる。これは、学校の規則やきまりが、高校生たちからより軽く見られていることを意味しているとも言えよう。とくに高規範群に比較して低規範群は、「悪いことをするときっとバチがあたる」「法律を守ることは大切」とは考えない者も多いが、「学校の規則やきまりを守ることは大切だ」と考えない者が多く、6割近くを占めている。

表３－４　規範群別に見た社会規範遵守観（「そう思う」者の比率）

社会規範遵守観	全体	平均値	低規範群	中規範群	高規範群
自分がよくても人に迷惑をかけるようなことはするべきではない	95.2	3.53	88.1	96.7	99.0
生活をしていく上で、法律を守ることは大切だ	85.2	3.18	74.8	85.4	94.0
悪いことをすればきっとバチが当たると思う	79.3	3.12	66.7	80.3	88.2
世間の人の目はきびしい	77.0	3.04	74.8	76.3	80.1
学校の規則やきまりを守ることは大切だ	63.3	2.73	42.6	64.2	80.6

表３－５は、生活価値観との関係を見たものであるが、ここでは「将来のために現在の楽しみをがまんするのは、ばかげている」という現実享楽的な生活態度をもつ者は6割弱を占めているが、成功を「運にかける」宿命論的な考え方や拝金主義的な考え方をする者はそれほど多くない。このような現実享楽的、宿命論的・拝金主義的傾向は、高規範群よりも低規範群の方がいずれも強い。

表３－５　規範群別に見た生活価値観（「そう思う」者の比率）

生活価値観	全体	平均値	低規範群	中規範群	高規範群
将来のために現在の楽しみをがまんするのは、ばかげている	57.2	2.67	62.4	59.0	50.6
人が成功するかどうかは運がいいかどうかにかかっている	44.0	2.41	53.2	43.5	35.5
世の中はお金だけがたよりだ	43.7	2.40	49.6	44.1	37.8

表３－６は、規範意識と社会やおとなへの不満・不信との関係を見たものである。この表からは、今日の高校生たちのほとんどが社会に対する不満を抱いていること、また、今の社会が、弱肉強食の世の中であると思っている者も多いことがわかる。おとなへの不信感をもつ者は６割を占めており、とくに高規範群に比べて低規範群は不信感が強い。

表３－６　規範群別に見た社会やおとなへの不満・不信（「そう思う」者の比率）

社会やおとなへの不満・不信	全体	平均値	低規範群	中規範群	高規範群
今の世の中には不満に思うことが多い	85.9	3.27	88.5	83.6	87.8
今の社会は強い者が弱い者を押さえつける社会だ	70.5	2.95	69.8	69.5	73.1
おとなの言うことはあまり信用できない	60.4	2.72	67.5	59.9	54.0

第２節　青少年の規範意識の形成と要因

本節では、前節で明らかにされた調査結果を踏まえて、青少年の規範意識の形成に、どのような要因が如何に関わっているかについて、まとめておくことにしたい。本調査結果からは、次のような点が明らかとなった。

第一に、規範意識の形成には親の影響が大きいことが予想されるが、親の影響については、表３－１に明らかなように、「人に迷惑をかけない」「あいさつをきちんとする」などは約半数近くの高校生が親から大切にするように言われている。「いのちや身体の大切さ」についても４割の者は親から大切にするように言われている。しかし、「がまんをする」「相手の立場を理解するように努める」「うそを言わない」ことを大切にするように言われているのは、ほぼ５人に１人に過ぎない。

公衆道徳的な面についてみると、「社会のルールを守る」ことを大切にするように言われた者は３割弱いるが、「公共のものや場所を大切にする」ように親から言われた者は、わずか４％しかいない。

第二に、図３－１においては、親に言われていないが、自分では大切に思っている項目と親に大切にするように言われていて、自分でも大切にしている項目が示され、両者の差がわかるが、ここで差の大きい項目に注目すると、「あいさつをきちんとする」「うそを言わない」「社会のルールを守る」「公共のものや場所を大切にする」が挙げられる。これらの規範は、親から子への働きかけや教育が相対的に大きな効果を挙げている規範であると考えられよう。